

## 第7回市民総参加のまちづくりサロン

(第7回は、第1回～第6回までの意見をまとめる作業のため、会議録は無し。)

市民参加者 14人

市側参加者 5人

### 健康・福祉・子育てなど 参加者6人

- 提言の項目
- ①病院統合（新病院）
  - ②子育て
  - ③地域での子育て支援（ララや空き敷地の利用、あやめ基地等）
  - ④学校について（学校統合・通学区・みまもり隊）
  - ⑤市政について

#### ○病院統合について（新病院）

- ・新病院建設場所（文化センター、岡谷病院現在地、駅南）をどこにするか、診療科目は？ということが問題になると思う。
- ・病院統合、病診連携、診療科目の統合の話は初めて知った人がいた。
- ・病院統合にあたっての病院運営委員会が立ち上がるとしたら、市民サイドの意見を聞いてもらうために一般市民を運営委員のメンバーに加えてほしい。病院運営委員会が立ち上がらなければ、市民の意見を吸い上げられる機会をつくってほしい。

#### ○市民の求める病院

- ・総合病院とかかりつけ医との連携をとってほしい⇒病診連携  
(例) 子どもが熱を出した時に、かかりつけ医にかかり、重い場合は病院へという連携。
- ・日赤を2週間で退院し、リハビリは違う病院で行う。(病診連携)
- ・新病院は市民にやさしい病院、行ってみたい病院になることを望む。
- ・統合によって、サービスがよくなってほしい。
- ・もっと市民が意見を言わなくてはいけない。
- ・新病院も本が近くにあることを生かして、病院を利用する人が図書館を利用しても良いのではな  
いか。
- ・新病院は循環器と脳外科が基幹の病院になると聞かすが、市民の役に立つ他の診療科目も大切に  
してほしい。病診連携も大切で、街医者との協力も必要でないか。
- ・経営ばかり考えて、看護の手薄状態等にならないようにしてほしい。
- ・たくさんの患者さんが来院する病院。(例えば、優秀な医者のいる病院)
- ・診療してもらおうという立場で考えた、市民が求める病院にしてほしい。

- ・統合後の診療科目について、岡谷病院は現在21科あるが、塩嶺病院の現在の診療内容（結核・緩和ケア等）も考慮し、特科の部分（心臓血管外科・糖尿病等）と必要とされる診療科目をうまく配分してほしい。
- ・病院の「たらいまわし」にならないよう、産婦人科等必要な診療科を残してほしい。
- ・検診で再検査となった場合に、病院内もしくは岡谷市内の病院で診療でき、完結できる体制をつくってほしい。
- ・地域医療・生活習慣病・予防医療について、福祉全般を考えた病院経営をしてほしい。
- ・経営面を考えた時、黒字を期待するが、福祉を考えての経営で全員が努力した上での赤字はしょうがないのではないか。

### ○市民と病院

- ・市民の関心を持たせるために、アンケート調査をしたらどうか。
- ・市長が「自分の医者を持つよう意識しましょう」と言っていた。どのくらいの人がそういうことを知っているか。市民に関心をどうもたせるか。
- ・年寄りが病院に行かないようにすべき。予防医療をしていくことが重要。
- ・健診（検診）を受けて、早期発見できれば、以降の治療費も安くなる。啓発（宣伝・PR）が必要。
- ・各地区の社協でやっている「いきいき」を市の予算でやっているが、「医者に行く人が少なくなったなど数字的な結果がほしい。→（他の事業にもあてはまるか）
- ・夕張市の病院は、医療法人が運営しており、介護施設も併設している。これからの病院には複合的な運営、経営が求められる。
- ・医師確保のために、岡谷市出身の医学部学生に奨学金を出してはどうか。是非地元で活躍してほしい。
- ・人間ドックの充実のために、岡谷病院と塩嶺病院の両方に検診科があった時（昨年度）と、塩嶺病院にすべて検診を持っていった時（今年度）の実績を調べ、どちらの方がいいのか判断したらどうか。
- ・病院の運営（PR）について、予防医療や子育て等と福祉全般の中で運営（PR）をしていくことが必要。（行政チャンネルの利用）

### ○子育てについて（こどものくに等）

- ・カルチャーセンターの4階全部を「子育て支援センター」にして、保育園児も一緒に遊ぶことで、縦のつながりができるのではないか。
- ・発想転換させて、3階4階を支援センターにしたらどうか。
- ・ララの空きスペースを利用。ララを活かしてほしい。
- ・岡谷保育園、上浜保育園がなくなった。「ヨゼフ」では多くは2歳で入園する。そういう人が優先されるため、3歳で入りたくても1人程度しか枠がない。これは考えなくては

いけない。

#### ○地域での子育て支援（安全、わんぱくに遊べる場所）

- ・定年後の人に見てもらう。
- ・あやめ基地の活動を他の地区にどんどん増やしてほしい。（西堀ラムラム広場）
- ・「あやめ基地」の活動を他の地域に広めていくにあたって、行政が PTA や保護者を教育し、自分たちで活動できるようにしていけばいい。
- ・ミニ公園を地域に。
- ・各地区の実情に合わせた場所を提供してもらいたい。（休耕地、学校、空きスペース）
- ・大人が地域づくりをする（お祭りなどの開催）
- ・今の子どもは小さい子との遊び方がわからない。世代間交流ができていない。昔は兄弟も多かったから自然に遊べた。もっとふれあっていかななくてはいけない。

#### ○学校について

- ・高校の統廃合も同じだが、将来的な人口の増減を考慮して見直しなくてはいけない。短期間で統廃合は理解が得られない。数年かけて進めることが必要。
- ・住居表示も区にこだわると進まない。親、保護者の都合より、子どものためにどうするのが良いかを考えなくてはいけない。
- ・高校再編でも空き校舎は老人ホームに活用するなど、建物を活かす方法はある。
- ・行政の進め方、PRが下手すぎるし、市民の関心も低い。保育第3子の問題も唐突すぎたし、病院統合のPRももっと外に、市民にもすべきだった。市民が考える動機付けが必要。市民自らの努力も足りない。
- ・学校統合や通学区については、これからの動向を見ながら長期的に考えていく問題であるとする。市民が財政の厳しさを理解しなくてはいけない。
- ・マリオ周辺の子どもが長地小学校へ通っている。田中小の方が近いのでは。他の地区も通学区が入り組んでいるところがある。
- ・保育園近くの道路や横断歩道で交通安全指導をする母親等に対して、指導方法についてどこかでサポートしたらどうか。子どものお手本となる母親等が正しい指導をしていないように思われる。
- ・通学途中「みまもり隊」で子どもを見ていると、以前より子どもからのあいさつがある。続けることで浸透していくと思う。

#### ○市政について

- ・広報おかやの編集は素晴らしいが、どれだけの人を読んでいるのか疑問。毎回号で一口メモのように、もっとわかりやすく情報を提供してはどうか。
- ・市政懇談会もプロジェクターなど使い、わかりやすく工夫されているが、参加者が少ない。市民の

- 自由な意見が出されるような場になれば良い。
- ・市の状況をこまめに広報や報道機関で知らせて欲しい。

## ○環境・ごみ・景観など 参加者 5人

- 提言の項目
- ①清掃工場の建設
  - ②ごみの有料化
  - ③ごみ減量の取り組み
  - ④環境問題（天竜川のアレチウリ）
  - ⑤市内の景観

### ○焼却炉の建設について

- ・ごみの減量に努力した後、建設した方がいいのではないか。できれば焼却はしない方が望ましい。
- ・焼却炉についての情報を知らせてほしい。
- ・焼却施設は必要だが、可能な限りごみを減量するシステムを考える必要がある。
- ・大きな焼却炉を作ったらごみは減らないと思う。
- ・大型の焼却施設は、ごみを減量した後、計画した方がいい。
- ・ごみ処理と減量は分けて考えたい。施設の話よりその前の段階を考えた方がいい。

### ○有料化について

- ・ごみを減らすメリットを考えないと減量は難しい。
- ・ごみを大量に出す人には負担増、または負担を変えるシステムは必要だと思う。
- ・市民にこんな負担が生じるという例を示したらどうか。
- ・減量と有料化を市民で議論する機会を作ったらどうか。
- ・強制的にしていくことで、市民からの意見や問題が出てくるはず。
- ・ごみの減量には強制力が必要ではないか。  
（例）有料化、ごみ袋の値段の見直し、分別していないものは回収しない。（燃えるごみ  
→生ごみ・紙・スチロールなど）
- ・いきなり有料化するのではなく、収集回数を減らすなど段階を踏んで進めたらどうか。
- ・ごみの減量と有料化は別の問題ではないか。単純に有料化すればいいのではないと思う。
- ・事業所で出たごみの回収の値段を上げるべきである。
- ・収集を週2回から1回にするのはどうか。回数を減らせばごみも減るかもしれない。

### ○ごみ減量の取り組みについて

(市民)

- ・ごみを減らすためには何をすればいいのか。市民意識を高めるなど考える必要がある。
- ・ごみを出す人がルールを決め、ごみについて責任を持たないといけない。ごみになる物を買わないことも必要。
- ・生ごみのリサイクルは、環境学習として子どもに実践させたい。
- ・市民がごみの問題を考える機会が必要。努力する機会が必要である。
- ・指導員制度を作り、一から始めるのはどうか。自分たちが発信し、何かに取り組みたい。
- ・市民サイドから具体的な提案が必要、ごみ減量の機会を与えてほしい。
- ・できることを今始めることが大切で、目標が必要。
- ・子どもたちの夏休みの宿題として、家庭のごみチェックはどうか。(家庭の状況把握)
- ・住民全員が役員をやれば意識の向上につながるという話もある。
- ・今までと違う、市民発の仕掛けはどうか。市民が考えているという視点が必要。
- ・今までにやったことのないことをして、市民の意識を変えなくてはならない。
- ・市民から市民のみなさんへの提案として、アンケートや実態調査をしてみたらどうか。
- ・岡谷は都会と違い、まだ地域の繋がりがあがる。それを生かしていい環境を残す方法を考えたらどうか。

(市)

- ・ごみに対する意識を変える必要があるが、それをPRする機会が無い。効果的なPRを進めてほしい。
- ・ごみの堆肥化をするとごみ減量につながる。堆肥の使い道が決まっていることが重要。
- ・諏訪地区はごみの分別が大ざっぱである。リサイクルのためには細かくする必要がある。
- ・岡谷市の回収は至れり尽くせりで丁寧すぎないか。ごみの回収の方法も根本的に見直す必要があるのでは。
- ・ごみに関する講演会は意識の高い人が来るので、その人たちが知っている話しをしても意味がないのでは。勉強になる講演が聞きたい。
- ・コンポストの補助は効果があったのか。この検証が必要。
- ・鮎沢地区のような、ごみ減量のモデル地区を増やすことはどうか。
- ・諏訪湖浄化の時のように市民からごみ減量に関して公募し、意識を高めるのはどうか。
- ・ごみ減量は進めるための目標と組織(母体)作り、区分け(地区)は重要である。ごみ減量をメインにした別の組織(推進母体)を作った方がいいのか。
- ・ごみ処理に民間の力を使うことも考えたらどうか。
- ・ごみ減量の周知が足りない。市で一人当たりの減量目標を宣言したらどうか。
- ・市民が考え進めるための組織が必要。
- ・ごみが出る量が日本一少ないまちを目指す目標はどうか。
- ・生ごみ処理機の補助を増やすことはできないか。処理した物の行き場が無い人もいるので、それを分別収集することはできないか。

- ・大型の生ごみ処理機を地区に設置することは可能か。管理は地区で行えばいい。
- ・衛生自治会が、ごみの出し方についてきちっと指導する体制づくりができないか。
- ・ごみに関するガイドラインを作って減量を進めたらどうか。
- ・JAに、家庭から出る野菜のくず（生ごみ）を集めてもらえるような協力体制を作ってもらえないか。
- ・組織的な見直しが必要。ごみを出せば衛生委員会が片付けてくれるということをやっているのはだめだと思う。
- ・タウンミーティングのような地道なことからはじめないといけないのではないか。時間がかかっても、市民が納得した形で進めた方がいい。

#### ○環境について

- ・天竜川の下流の環境について考えてほしい。
- ・天竜川の下流の環境を考えてほしい。アレチウリの除去に市民が参加してほしい。
- ・子どもたちにアレチウリを見てもらい、環境についてPRすることが大切。
- ・アレチウリを知ってもらい、散歩の途中で抜いてもらう活動はどうか。
- ・興味のない人にアレチウリの駆除に参加してもらういい方法はないか。茅野市では大きなアレチウリを駆除した人に商品を出した。
- ・下水道は流せばいい感覚である。なるべく汚さないで流すことが必要ではないか。
- ・横河川は大切な水源である。みんなで力を合わせ大切にしないといけない。
- ・諏訪湖周辺の水辺を整備し、水資源の有効活用を図る。
- ・諏訪湖にジョギングロードやサイクリングロードを整備し、豊かな水辺を創出する。

#### ○景観について

- ・小坂観音からの眺めは素晴らしい。近くにマンションがあつたら台無しになる。まちづくりで景観を考えるのは大切である。
- ・小坂の景色は素晴らしい。市内の美しい景観を保護したい。
- ・諏訪湖の周囲は景観をもっと大切にしたい方がいい。小坂観音からの眺めや、塩嶺からの景色、川岸地区の新緑や桜、つつじなど、身近なところを大切にしたらどうか。
- ・土地の所有者の理解が必要だが、ある程度の規制も必要ではないか。
- ・市内の美しい景色 100 選を決め、景観、水源、樹木などを保護したらどうか。そうしないと守れないのでは。PRにもつながる。保存のために何をすべきかを考えるのが大切。
- ・景観条例を作り、景観の保護を行ったらどうか。
- ・マンションが本当に必要なのか。
- ・空き地をうまく利用させてもらえるようにしたい。地主にも近所の人にとって良い使い方ができたらと思う。

### ○その他

- ・病院を建設するなら、諏訪中央のようにボランティアが管理する癒しの庭を作ってほしい。諏訪日赤は緑がなく、無機質である。
- ・新しい病院には、緑がある憩いの場がほしい。

### ○街の賑わい、活性化など 参加者3人

- 提言の項目
- ①まちのにぎわい
  - ②憩いの場・サロンについて
  - ③食を活用したまちづくり
  - ④ララおかやの活用
  - ⑤中央通りの商業
  - ⑥マンション、景観

### ○まちのにぎわいについて

- ・太鼓祭りは本当に市民のためのものか、観光を目的としているのか。来た人がまちにお金を落としているかは疑問である。
- ・太鼓祭りは日程が悪く、地区で盆踊りをする日にやっている。地区に帰ってきてもまちへ行ってしまふ。中心市街地への集客ならば、該当する市街地の人がやる気を出さないといけない。地区のことを第1に考えてもらいたい。
- ・お祭りに来た人がまた来たいと思うかが大切である。
- ・まちづくりのイメージを作ってみたらどうか。
- ・一つの目的を持ってまちづくりを行ったらどうか。
- ・やまびこ公園ができてから御野立公園は寂れている。遮断されているものを地下道などで繋げれば活性化する。
- ・花岡公園や小坂観音などを活かす、新しいものを作る必要はない。
- ・カンテンパパ（伊那市）は周辺に広がっている。ヒントになるのでは。
- ・自分たちが気づいていない魅力が、岡谷市にもあるのではないか。
- ・アピールできるものを作るのはどうか。
- ・岡谷にも全国に知れ渡るようなまちがあればいい。横浜元町、小布施、川越あめや横丁、奈良井宿、妻籠宿など。
- ・今条件がいいところを活性化していくこともあると思う。
- ・今ある良い所を生かす。自然では横川の水、桜。人では特技を持った人を生かす。大橋機械のロボットなど。

### ○憩いの場・サロンについて

- ・学生の溜まり場になるようなところがあればいい。

- ・ララ岡谷に限らず、誰でも集まれるようなサロンを設けて、頻繁にイベントを行い、色々な人たちが集える楽しい場所にして、スタッフもボランティアではなく市から出しているだけで、イベントの企画をしたり、普段は子育ての悩みを話したりなど・・・常駐する人はアドバイスできるような人を置いて、色々な方が集まる場所ができればいい。
- ・こどものくには、基本にお母さんと一緒に、こどもを預けていくことはできないので、例えば買物や美容院、ちょっと息抜きをしたいときに1～2時間預かってもらえたり、集まってちょっとお茶が飲めたりできるような場所を作りたいと思う。現在の子育て事情を考えると、地域で育ててあげるといふことも必要だと思う。
- ・下諏訪には高校生が集まることができるサロンがある。若い子どもたちにも自分たちで、そして岡谷で活動できるような場もつくりたい。  
(子どもと遊ぶ・学校紹介・PR・マーケット・部活動など発表の場など)
- ・中央通りに憩いの場やサロンなど、みんなが集まるものを作りたい。子育てしている人は預かって、1時間、2時間でもいいから映画見たり、買い物したり。
- ・人が集まれる場所や、子育て支援のできる場をつくりたい。
- ・現在のこどものくが、こどもをちょっとの時間でも預けられるようになれば一番いいと思う。団塊の世代でやってもいいという人が参加できる仕組みになれば面白い。

#### ○食を活用したまちづくり

- ・岡谷には製糸、みそ、酒があるので、うなぎの骨を入れた骨酒、うなぎの粉の入ったみそ、うなぎのアイス、シルクシュウマイなどちょっとしたもので頭を使ったまちづくりをすればいい。
- ・安いうなぎを提供するなど、例えば土用は1000円にするなどやればいい。
- ・諏訪湖のサービスエリアで買い物をよくしているが、いろいろなものがあり、参考にすることができればいい。
- ・新しいものではなく、今あるものを使っていく、共生させて循環させていくことが必要と思う。味噌では、松亀みそには大型バスが入って客が来る。これを少し広げて、お酒とかも買ってもらう。そういう取り組みが必要ではないか。
- ・食べ物は、街の賑わいにとって大切な要素だと思うが、今のところ決定打がない。もう少し、インパクトのあることができればと思う。
- ・順を追っていくと色々なアイディアも出てくる。(岡谷の味噌を使った味噌ラーメン・うなぎアイス・シルクアイス・シルクシュウマイなど)
- ・以前街中にうなぎを食べられる所が少ないという話が出たことがあるが、取り入れられてあちこちで食べられるようになった。うなぎ以外の新しいものを取り入れてほしい。食べ物は大事なので入れて欲しい。

#### ○ララおかやの活用について



- ・市民が集まって楽しめる場所があったらいい（ララオカヤの有効活用）
- ・岡谷に来たらなにか面白いことがある。そういう駅前になればいい。
- ・今のララを利用すべき、駅から出てララがあればではどうしようもない。
- ・健康づくりなどやまびこまでは行かれない。ララを利用すればいい。
- ・市民がララの活用について提案することを考えてみたい。
- ・ララは今のままで使えばいい。青森の駅前とか再整備の例もある。カルチャーの分室みたいにして利用したらどうか。
- ・部屋が飽和状態で使えない人がハイツに流れてしまっているの、ララを使ったらどうか。なるべくお金をかけずにすぐできる事、利用料金などを含めて提言に入れたらどうか。
- ・ララはマンションではなく、他の使い方があっていいのではいか。
- ・ララ岡谷を有効に活用して、市民が集まって楽しめる場所があったらいいと思う。
- ・岡谷駅を降りても食べるところがないと言われる。
- ・駅前再開発の計画をたたき台にして意見交換したらいい話し合いができるのではないか。
- ・何年前か前、駅前再開発の懇談会で話し合い、提言したことがある。その資料を公開し、それについて話し合いを行えば収穫があるだろう。

## ○中央通りの商業について

### ソフト面

- ・商業者に何を求められているのかをつかみたい。商業者と生活者（利用者）の間での議論がない。
- ・若い人よりも年寄りをターゲットにすべき。
- ・マンションができてきたので、そこの住民の方にお届けサービスなどはどうか。
- ・商業関係の横のつながりが不足している。
- ・賑わいや活性化には地元の人がどうしたいのか聞いてみたい。
- ・商店で集まってそういう話し合いをするべき。商店自体がガッチリ組んで。商店自身が取り組みを進めないとうちにもならない。
- ・商業者で無い人にもこれだけ、中央通りを考えている人がいる。
- ・「よみがえれ中央通りの会」みたいなものを立ち上げ、毎月行事をやることを考えたらどうか。企画をして、予算を市から貰えばいい。
- ・市民としても中央通りを応援するグループを作ったらどうか。
- ・中央通りほど歩いて楽しい道はないという意見がある。
- ・中央通りを根本的に変えていく方法が必要、あの斜めの道ではだめだ。これはあの場所でやっている人達が考えないといけない。

### ハード面

- ・店舗の種類を増やすべき。

- ・お客さんや店主などが集まれる基地のようなものを作って、交流の場にしたい。
- ・スカラ座などは中央町の立体駐車場を利用した場合には、入場料を割り引くなどしており、歩く人の流れを作り出している。人の流れを作り出すような工夫や努力が必要ではないか。
- ・店から店に歩いて見たくなるような個性のあるまちづくりが必要。
- ・車を置いて歩くことをこれからのメインにしたらどうかと思う。休めるカフェテリアとか、貸し出しカートとか、フリーマーケットとかを考えてみたらどうか。フリーマーケットの時は歩行者天国にする。空いている店舗は貸出店舗や音楽など趣味の発表の場として使う。そんなことが月に1回でもできればいいと思う。
- ・まちのベンチを作るのに寄付を貰って名前を入れているところもある。
- ・中央通りのイメージチェンジは必要。
- ・地元の商業者に客を集めるには、そこで完結した方がいい。
- ・通りに駐車場が無いことも問題である。
- ・駐車場がない→以前から土地、建物、借主が違うため権利問題や、商業者の考え方の違いなどがあるため、新しい駐車場をつくる事が難しいが、駐車場が増えるようなしかけはないか、というような提言をしていきたい。
- ・市営の駐車場を作って欲しいというのではなく、通り沿いに、店の駐車場として借りられる土地があれば良い。(使われていない古い家を取り壊された跡地で良い。)

#### ○マンション・景観について

- ・マンションがどんどんできてきているが、このことについて市民がどう思っているか。
- ・マンションができたわりには中央通りに人が増えたという感覚がしない。マンションが街の賑わいに繋がるかは分からない。景観上の問題もあるのでは。
- ・マンションが3棟できたが、さらに市でも計画している。需要と供給のバランスなど、今後のまちづくりの課題として、テーマにしたらどうか。

#### ○その他

- ・駅南、カルチャーセンター、福祉センターなど、公共施設を造ると固定の税金など上がるものが上がらない。処分するものはすべき、お金になることをやるべき。
- ・カルチャーの利用料金も安すぎる。100円とか50円で、そんなに安くする必要はない。営利目的はしっかり取っていい。電気料にもならない。
- ・7年ほど前に帰郷した。施設(ハード)は恵まれているが、有効に活用されていないように感じる。カノラなど施設はいいが、有効に活用することを考えた方がいい。